

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「教授」(3R s)ではなく「教育」を
駒澤大学入学センター所長
佐藤 千春
- 2008 年度「学生による授業アンケート」(前期)集計結果
- 2008 年度公開授業
文学部 湯淺 隆
- 初期導入科目・フレッシュマンセミナーの現状と課題
総合教育研究部 鈴木 裕子
- FD推進委員会の今後の活動予定

「教授」(3R s)ではなく「教育」を

駒澤大学入学センター所長・文学部教授 佐藤 千春

少子化、グローバル化に伴い、学生サービス、授業内容の改善、教員資質の向上といった時代の要請に基づきFDが問題とされている。さまざまな教授法がとりあげられ、その成果が論じられている。

入学センターでの職務の関係上、高校からの生の声に日々触れている。部署の職員、進学アドバイザーは、全国での進学説明会、高校訪問、その他あらゆる面で、教育現場と接触をしている。教員も模擬授業等の形で、これに参加している。気がついたことは、高校側が本学への受験方法だけを求めているのではなく、本学の教育内容、特徴等を更に知りたがっているということである。「駒澤大学の将来への取り組みがはっきり見えてこない。そのため駒大をめざす生徒への具体的進路指導が定まらない」という厳しい指摘もあった。「駒澤のあの先生にもう一度模擬授業をしていただきたい」という声もあった。授業内容は難しく理解できなかったが、それ以上にその先生の仕草、表情、声、熱意に「感動した」という。分からないが何か、これが大学なんだ、大学に行ったらやらなくてはという気持ちになったというのである。

私たちはこの「感動」を忘れてしまっているのではないだろうか。時代遅れの謗りを覚悟で言おう。授業時間は必ずしも守られなかったが、その先生の人柄と授業に惚れこみ何か新しい人生観、価値観を見いだした、いわゆる回心のごとき経験を味わったことがあるだろう。だが現実には、無記名の授業評価が、一部の学生には、日頃の単なる鬱憤晴らしの格好の機会を与えることになっている。また、教員の中でも、FDに目を奪われ、評価という言葉にとらわれ、これが論文、著作の内容を含めた業績第一の順位づけにつながり、ひいては給与や人事査定にまで直結することになる。まさにここには教育を金銭で測る拝金主義の醜い姿が目につく。

私たちに大切なのは小手先の「教授」(3R s)ではなく「教育」のほう、教員がその人のすべてを出す体当たりの姿勢ではないか。いま一度、教育は人間を相手とするものだという出発点に戻るべきであろう。単なる教授方法を模索する以前に、教員自身の人間としての深みが求められるのではないだろうか。

2008 年度「学生による授業アンケート」(前期) 集計結果

2008 年度「学生による授業アンケート」(前期)を以下のとおり実施した。また、その結果については、科目分野ごとに、質問項目に基づき学部・学科の平均値を示した。

実施日	平成 20 年 6 月 16 日～6 月 21 日
対象科目	429 科目
対象者数	32,342 人
実施科目数	426 科目 (99.3%)
回答数	21,125 枚 (65.3%)

【質問項目】

講義科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 10 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 11 . 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q 12 . 私語等の雑音がなく授業に集中できる環境が保たれていましたか。
- Q 13 . この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。

- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 17 . 担当教員による個別質問
- Q 18 . 担当教員による個別質問
- Q 19 . 担当教員による個別質問
- Q 20 . 担当教員による個別質問

実験・実習科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。
- Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 10 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 11 . 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。
- Q 12 . 私語等の雑音がなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 13 . この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 17 . 担当教員による個別質問
- Q 18 . 担当教員による個別質問
- Q 19 . 担当教員による個別質問
- Q 20 . 担当教員による個別質問

語学科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 補助教材の視聴覚資料(カセット、ビデオ等)を効果的に取り入れていましたか。
- Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 10 . 発音・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 11 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 12 . この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q 13 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 14 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 15 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 16 . 担当教員による個別質問
- Q 17 . 担当教員による個別質問
- Q 18 . 担当教員による個別質問
- Q 19 . 担当教員による個別質問

保健体育実技科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 8 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 9 . 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
- Q 10 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 11 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q 12 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 13 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 14 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 15 . 担当教員による個別質問
- Q 16 . 担当教員による個別質問
- Q 17 . 担当教員による個別質問
- Q 18 . 担当教員による個別質問

個別項目についての学科・専攻別平均値

表1-1～表4-2は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、担当教員による個別質問の項目については掲載していない。また、有効回答が2名以上あった学部・学科のみ掲載した。

表 1 - 1 講義科目

学部(学科)(専攻)	(仏教)(禪)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(英米文)	(文)(地理)(地域文化研究)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)	(文)(歴史)(日本史学)	(文)(歴史)(外国史学)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(社会)(社会学)	(文)(社会)(社会福祉学)	(文)(心理)
Q01	3.2	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.1	3.3	3.5	3.3	3.2	2.9	3.3
Q02	3.5	3.5	3.3	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.7	3.6
Q03	1.4	1.5	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.4	1.3	1.5	1.3	1.2	1.3
Q04	3.3	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.1	3.0	3.1	3.1	3.1
Q05	3.5	3.3	3.1	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.3	3.2	3.1
Q06	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.8	3.6	3.8	3.7	3.9
Q07	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0
Q08	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.3	4.2
Q09	3.4	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.7	3.6	3.7	4.0	3.9
Q10	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7	3.6	3.8	3.8	4.0
Q11	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.2	3.3	3.3	3.1	3.4	3.6	3.6
Q12	3.7	3.7	3.4	3.7	3.7	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8
Q13	3.4	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8
Q14	3.4	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8	4.0	3.9
Q15	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	4.3	4.1
Q16	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	3.9	4.4	4.5
有効回答数	124	242	664	408	280	211	135	283	193	152	199	274	97

表 1 - 2 講義科目

(学部)(学科)(専攻)	(経済)(経済(A))	(経済)(経済(B))	(経済)(商)	(経済)(現代応用経済)	(法)(法律A)	(法)(法律B)	(法)(政治)	(経営)(経営(A))	(経営)(経営(B))	(経営)(市場戦略)	(医療健康科)(診療放射線技術科)	(GS)(GM)	(短期大学)
Q01	3.5	3.4	3.4	3.2	3.1	3.1	3.4	3.6	3.6	3.5	2.8	3.1	4.5
Q02	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6	3.7	3.4	3.4	3.5	4.0
Q03	1.5	1.5	1.6	1.6	1.5	1.6	1.4	1.5	1.5	1.3	1.8	1.6	4.5
Q04	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.5	3.2	3.2	3.2	3.0	3.3	3.3	4.0
Q05	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.1	3.1	3.5	3.6	4.0
Q06	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.4	3.8	3.9	3.9	3.6	3.4	3.6	4.0
Q07	3.7	3.8	3.7	3.5	3.5	3.4	3.7	3.7	3.7	3.5	3.6	3.8	4.5
Q08	4.0	4.1	4.0	3.7	3.8	3.7	4.1	4.1	4.2	3.9	3.8	3.9	3.5
Q09	3.6	3.6	3.6	3.4	3.3	3.3	3.7	3.7	3.8	3.4	3.4	3.4	4.5
Q10	3.7	3.6	3.7	3.6	3.5	3.3	3.7	3.6	3.9	3.4	3.4	3.4	3.5
Q11	3.4	3.5	3.5	3.3	3.0	3.2	3.4	3.5	3.5	3.0	3.3	3.5	4.0
Q12	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.6	3.9	3.5	3.6	3.3	3.4	3.2	4.5
Q13	3.6	3.7	3.6	3.4	3.3	3.3	3.7	3.7	3.8	3.4	3.5	3.5	3.5
Q14	3.7	3.7	3.6	3.4	3.4	3.3	3.8	3.7	3.9	3.6	3.5	3.5	5.0
Q15	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.4	4.1	4.1	4.2	4.1	3.8	3.9	4.5
Q16	4.2	4.3	4.3	4.0	4.5	3.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.0	4.1	5.0
有効回答数	1,619	548	1,426	1,231	820	390	559	713	126	57	1,380	3,906	2

表 2 - 1 実験・実習科目

(学部) (学科) (専攻)	(仏教) (禅)	(仏教) (仏教)	(文) (国文)	(文) (英米文)	(文) (地理) (地域文化研究)	(文) (地理) (地域環境研究)	(文) (歴史) (日本史学)	(文) (歴史) (外国史学)	(文) (社会) (社会学)	(文) (心理)
Q01	5.0	4.0	4.0	3.3	3.2	3.2	4.0	3.0	3.8	3.8
Q02	4.0	4.8	4.3	3.3	4.1	4.1	3.0	3.7	3.4	3.8
Q03	2.0	1.0	1.0	1.0	2.8	1.7	1.5	1.0	1.2	1.0
Q04	3.0	3.0	3.0	3.0	3.7	3.6	3.0	3.0	3.0	3.0
Q05	3.5	2.6	3.0	3.3	3.9	3.7	2.5	3.0	2.4	3.2
Q06	3.5	4.2	4.3	4.0	3.9	3.8	4.5	4.3	4.2	4.2
Q07	4.5	4.4	4.3	4.0	4.0	4.0	3.5	4.3	4.6	4.0
Q08	5.0	4.4	4.1	4.3	4.1	4.2	4.0	4.7	4.4	4.2
Q09	5.0	4.4	3.6	4.0	3.7	3.5	4.5	4.3	4.6	4.0
Q10	5.0	4.2	4.0	4.3	3.9	3.8	4.5	4.7	4.8	3.8
Q11	3.0	3.6	3.7	4.0	3.6	3.3	3.5	4.0	4.0	3.0
Q12	5.0	4.8	5.0	5.0	4.1	3.9	4.5	5.0	5.0	3.8
Q13	5.0	4.6	4.3	4.7	3.8	3.9	4.5	4.3	4.8	4.0
Q14	5.0	4.4	4.1	4.3	3.7	3.8	4.5	4.7	4.4	3.8
Q15	5.0	4.8	4.3	4.7	4.4	4.1	5.0	4.3	4.8	4.0
Q16	5.0	4.8	4.9	5.0	4.5	4.6	5.0	4.7	5.0	4.6
有効回答数	2	5	7	3	63	74	2	3	5	5

表 2 - 2 実験・実習科目

学部(学科)専攻)	経済(経済(A))	経済(商)	経営(経営(A))	医療健康科(診療放射線技術科)	GS(GM)
Q01	3.9	3.3	3.4	3.5	3.5
Q02	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
Q03	1.4	1.0	1.4	2.0	1.3
Q04	3.0	3.2	3.0	3.0	3.2
Q05	2.7	3.3	3.1	2.5	2.9
Q06	3.9	3.8	4.1	4.0	3.8
Q07	3.7	4.0	4.1	4.0	3.7
Q08	4.2	4.5	4.4	4.0	4.2
Q09	4.0	4.2	4.1	4.0	4.0
Q10	4.0	4.5	4.2	4.0	4.2
Q11	3.8	3.5	4.1	4.0	3.6
Q12	4.5	4.8	4.4	4.0	4.5
Q13	4.0	3.7	4.1	3.5	3.8
Q14	4.0	4.2	4.0	3.5	4.2
Q15	4.1	4.5	4.3	3.5	4.3
Q16	4.3	5.0	4.5	4.5	4.6
有効回答数	12	6	29	2	13

表 3 - 1 語学科目

学部(学科)(専攻)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(心理)	(経済)(経済(A))	(経済)(商)	(経済)(現代応用経済)	(法)(法律A)	(経営)(経営(A))	(GS)(GM)
Q01	4.0	3.3	3.0	3.5	3.8	4.1	4.1	5.0	3.9	3.8	2.9
Q02	3.5	3.7	5.0	4.5	3.9	4.1	4.0	5.0	3.9	3.9	3.9
Q03	2.3	1.3	3.0	1.5	1.6	2.4	2.4	5.0	1.7	2.1	2.4
Q04	3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	3.1	3.0	4.5	3.0	2.8	3.3
Q05	3.0	3.1	3.0	3.5	3.2	3.0	2.9	4.5	3.1	2.8	3.7
Q06	4.0	4.1	3.5	4.0	4.0	4.1	4.3	4.5	4.2	3.9	3.8
Q07	4.0	3.6	3.0	2.5	4.0	3.5	3.5	4.5	4.0	3.5	3.0
Q08	4.0	4.6	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2	4.5	4.2	4.1	4.1
Q09	3.7	4.3	4.0	4.0	3.9	4.3	4.0	4.5	4.2	4.2	3.8
Q10	3.7	4.4	3.5	4.0	3.8	4.4	4.2	4.0	4.1	4.2	3.8
Q11	3.3	3.7	4.5	3.0	3.9	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9
Q12	4.0	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.5	4.5	4.1	3.7	3.9
Q13	4.3	4.0	3.0	4.0	4.0	4.2	3.9	4.5	3.9	3.9	3.8
Q14	3.7	4.4	4.0	4.5	3.9	4.1	4.3	4.0	4.0	4.3	4.4
Q15	3.7	4.6	4.0	4.5	3.8	4.2	4.3	4.5	4.3	4.5	4.5
有効回答数	3	7	2	2	9	15	22	2	9	95	1,398

表 4 1 保健体育実技科目

学部(学科)(専攻)	(仏教)(禅)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(英米文)	(文)(地理)(地域文化研究)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)	(文)(歴史)(日本史学)	(文)(歴史)(外国史学)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(社会)(社会学)	(文)(社会)(社会福祉学)	(文)(心理)
Q01	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	3.2	3.0	3.0	2.8	3.0
Q02	4.1	4.2	4.2	4.4	4.3	4.5	4.2	4.2	4.1	4.2	4.4	4.3	4.3
Q03	1.4	1.3	1.2	1.4	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.1	1.2	1.1
Q04	3.0	3.2	3.1	3.1	2.9	2.9	3.1	3.1	3.0	3.2	3.0	3.1	3.0
Q05	2.8	3.1	3.1	3.1	2.9	2.8	3.0	3.0	2.9	3.1	3.0	3.1	3.1
Q06	3.9	4.0	3.8	4.1	3.8	4.1	3.6	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8
Q07	4.0	4.1	4.4	4.5	4.3	4.6	4.3	4.3	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4
Q08	3.9	3.8	4.1	4.3	4.0	4.3	3.8	4.0	3.8	3.8	4.1	4.1	4.0
Q09	3.8	3.8	4.0	4.2	3.8	4.1	3.9	4.0	3.8	4.1	3.9	4.0	4.0
Q10	4.1	3.8	4.0	4.3	3.9	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2
Q11	3.9	3.7	4.1	4.2	4.0	4.3	3.9	4.0	3.6	3.7	4.1	4.0	3.9
Q12	4.0	4.0	4.2	4.4	4.2	4.3	4.0	4.2	3.8	3.8	4.4	4.2	4.1
Q13	4.0	3.9	4.2	4.4	4.2	4.5	4.0	4.3	4.1	4.1	4.3	4.4	4.3
Q14	4.4	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.4	4.2	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
有効回答数	72	133	170	127	88	78	29	42	45	34	71	92	99

表 4 2 保健体育実技科目

学部(学科)専攻)	経済(経済(A))	経済(商)	経済(現代応用経済)	法(法律A)	法(政治)	経営(経営(A))	経営(市場戦略)	医療健康科(診療放射線技術科)	GM(S)(GM)
Q01	3.2	3.2	3.2	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.0
Q02	4.2	4.2	4.2	4.4	4.3	4.2	4.1	4.1	4.2
Q03	1.5	1.3	1.4	1.7	1.2	1.4	1.3	1.8	1.5
Q04	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.3	3.2
Q05	3.0	3.0	2.9	2.8	3.0	3.1	3.0	3.1	3.1
Q06	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	3.7	3.8
Q07	4.1	4.2	4.3	4.3	4.4	4.4	4.2	3.8	4.0
Q08	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	3.6	3.8
Q09	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	3.8	3.9
Q10	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2	4.2	3.9	3.6	3.8
Q11	3.7	3.9	4.0	4.3	4.2	4.1	4.0	3.8	4.0
Q12	3.9	3.9	4.0	4.4	4.3	4.2	4.2	4.0	4.1
Q13	4.1	4.1	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2	3.9	4.2
Q14	4.2	4.3	4.5	4.6	4.6	4.5	4.4	4.0	4.3
有効回答数	385	229	83	114	79	377	138	67	299

2008 年度公開授業

例年通り 2008 年度も 11 月から 12 月にかけて公開授業を実施することが決定している。公開授業の実施については、各学部等が主体で実施することになっている。今年度は、文学部が 6 月に実施したので紹介する。

日 時：平成 20 年 6 月 23 日

曜日・時限・教場名：月曜日 4 時限 7-306

科目名：古文書講読

受講対象者：文学部歴史学科日本史学（2・3・4 選必）、外国史学（2・3・4 選）、考古学（2・3・4 選）

参観者：5 名

「公開授業を終えて」

文学部准教授 湯浅 隆

公開授業の当日、教場へ向かうとき、久しぶりに緊張した。3 年前ぐらいまで、教場に向かうときにいつも感じていた不安が蘇ってきた。準備した材料で 90 分保つだろうか、自分でも分からないことが出て立ち往生したらどうしようか、など。

数年前まで、非常勤講師しか経験のなかったとき、授業に行く前の晩は、授業内容を一晚かけて予行した。当日の授業開始前に、他人から話しかけられることは苦痛であった。そのころ、週に何コマも授業をこなす専任教員は凄い能力の持ち主だと思っていた。この思いは、駒澤にきてもしばらくは続いた。

授業は、三十数年前に自分が習ったころを思いだしながら進めるしかなかった。寝ている学生・抜け出す学生には、昔日の我が姿を重ねた。進め方は、学生の顔つきを見ながら、答案の文言をみながら、すこしずつ修整を加えていった。学生による授業評価のコメントで気がつくこともあった。感想は、ゼミの学生に尋ねることが多かった。進取の気風は持ち合わせていないから、新しい教育機器を使いこなす努力はしなかった。プリントを配り、板書するだけを頑なにづづけてきた。そして、いつしか不安は忘却の彼方へ、何とかなるといふ感じに変わっていた。

こんなときに、学科からの教育的配慮にて、公開授業を委ねられた。いま、ふと思うことは、授業のビデオ撮影をゼミの学生に頼んでみようか、ということである。

初期導入科目・フレッシュマンセミナーの現状と課題

総合教育研究部教授 鈴木 裕子

大学生の「学力低下」が話題になって久しい（既に、昭和 30 年代生まれの私の世代でも、近頃の学生の学力低下は嘆かわしい、と老教授たちに溜息をつかれたものである）。学力とは何かということも問題だが、ともかく、入学して早々に授業や大学生活に不安を持つ学生がドロップアウトしないように、支援を必要とする学生に素早く対応する体制が必要だ。文部科学省の意向にかかわらず、多くの大学でリメディアル（補習）教育・初期導入教育の重要さはますます切実になるだろう。

駒澤大学でも、学生支援の科目を開講している。日本文化部門が、全学共通科目の中に選択科目として開講している「フレッシュマンセミナー（以下 F S と略す）」も、そうした目的のために、一年生の前期に限定して、2006 年度に新設された。実は、この稿は、F S の紹介を、という編集委員からの依頼に応じるものである。

この科目のコンセプトは、「大学での学びの動機付けと学生生活へのケア」である。現在のところ、日本文化部門のスタッフによりバラエティに富んだ（学生のニーズに対応するために）9 講座が開かれている。個々の授業内容については、KOMSY などをご覧いただくことにして説明を省略し、一例として、私の場合を簡単に紹介し、責任を果たしたい。

今年度、私は「自己表現のためのレッスン」として、主にアカデミック・ライティングの方法を実践するプログラムを用意した。受講生は、レポートや手紙など実用的な文章の書き方を知るだけでなく、いろいろな種類の文章（新聞記事、評論、J ポップの歌詞など）を次から次へと読んで要約したり意見文をまとめたり、ディスカッションしたりなどといった作業を行う。毎回提出した小論文などは、添削して返却する。優秀作や問題作は、プリントして全員で読む。半期での十分な指導は困難だが、個々の学生が自分に必要なものを自覚するきっかけをつかんでもらえればよいのである。

大学での学習では、文章を読み書きする力や、話を聞き取って書く力がかなり必要とされるのだが、そのことに不安を抱く新入生は少なくない。そのような学生には、まず、文章

を書くことへの抵抗を軽減する指導が有益だ。また、挫折感を抱いて入学した学生には、「駒澤大学生である自分」を受け入れる機会を提供したい。表現力に少し自信がつけば、大学での他の授業への取り組みや学生生活にも弾みがつくことが多い。そして、FSならではのメリットとして、多様な学部学科の学生と横のつながりができるということがある。ただし、曜日や時限により玉川校舎での授業の関係や、必修の専門科目などとの関係で、受講生の顔ぶれは変わる。4月になって教材を差し替えたり、授業の進め方をアレンジしたりする必要があるので、少し慌ただしい。また、本当に必要な学生が受講していないのではないかと懸念もあるが、それは私としては、どうしようもないことである。

さらに、セミナーというからには、少人数制であることがポイントになるはずであるし、学生もそれを期待するだろう。ところが、実際には100人を越える(今年度は200人以上の場合も)受講生を抱えるスタッフも複数いる。FSへの期待度・必要度の高さが窺えよう。とは言え、多人数講義でも十分な効果が得られる場合もあるだろうが、私のようなプログラムでは、30人から40人程度が適切で、50人を越えると目的を十分にはたすことはできない。他大学の例では、導入教育としての日本語表現では、1クラス20人から30人程度、45人以上の場合は教員1人にTA2人がつくという例もある。現在、全学共通科目のFSを採用しない学部もあるので、なんとなくかなっているような状態であるが、もし今以上に受講生が増えるようなことになれば、(大学が本気で初期導入教育を考えているならば)対策を考えなくてはならなくなるだろう。

最後に、FS担当スタッフの専門分野だが、日本文学、日本語学、演劇、PC教育などである。導入教育は、まだ研究分野として確立していないので、専門家というのはいないのである。他大学でも同様である。これから多くの実践と研究を重ね、他大学との情報交換も通して、研究領域を作っていくことは可能であろう。本学でも、他学部他学科他部門のスタッフの協力と理解を仰ぎたいところである。

FD、学生評価、補講率や学生支援・・・決して振り回されたくないが、学生の状況が変化している以上、教育職員たるわれわれもそれに応じて柔軟な対応が求められるのは当然である。本学では、全学を挙げて取り組むべきリメディアル教育・初期導入教育の必要性について、教員間に微妙な温

度差があるように感じられるが、導入教育は専門教育の充実化とつながるのである。大学の発展のためにも総合的に大学教育全体を俯瞰する大きな視野を持つことは必要である。教育・研究のバランスを取りつつ、いい仕事をしたいものである。

FD推進委員会の今後の活動予定

平成20年度第5回FD推進委員会小委員会開催

平成20年10月2日(木)

FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

今回のFD NEWSLETTERも学内の諸先生方から貴重な原稿を頂きました。お忙しい中のご寄稿、誠に有難うございます。周知の通り、FDは個々の教職員による取り組みであると同時に、大学が組織的に推進する全体的な取り組みでもあります。それゆえ、学内の各部署・方面での教学上の実情を教職員が相互に把握するうえで、本FD NEWSLETTERは重要な役割を担っていると考えられます。今後ともFD NEWSLETTER発行へのご協力をお願い申し上げます。

本号では2008年度「学生による授業アンケート」(前期)の集計結果を掲載しています。今年度から基本的に全科目においてアンケートを実施することになったうえ、いくつかの質問項目が変更・削除されています。それゆえ、単純に昨年までのデータと比較・検討はできないかと思いますが、FD活動を進める際の参考にいただければ幸いです。

(藤原篤志、河谷 淳)

【タイトル横の写真は、正門の花壇】

FD NEWSLETTER Sep.2008 第16号

発行日：2008年9月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

03-3418-9125 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)